

令和3年7月15日（木）中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
議題（1）についての意見

東北大学大学院情報科学研究科教授

東京学芸大学大学院教育学研究科教授

堀田 龍也

- いずれの実践報告もたいへんすばらしいと感じました。いずれの実践も、理数教育の延長のみならず、ICTの積極的な活用をはじめ、これからの情報社会を見据えた探究的な学習が行われていることに感心しました。
- 数学や理科など、理数教育の延長で検討されることが多いのですが、今日STEAM教育に注目が集まっている背景には、情報技術の急速な発展と、それによる社会の変化、ビジネスの変化、求められる人材の変化があります。
- 中央教育審議会の先の答申にも、STEAM教育については高等学校で重点的に取り組むべきものであるが、その土台として、プログラミング教育などの充実に努めることも重要ということが記されているところです。小・中学校ではGIGAスクール構想で日常的にICTを活用して学習をする時代になっております。STEAM教育でも学習リソースへのアクセスや、他校や専門家との情報交換にICT活用は不可欠と考えられます。
- さらに、情報活用能力に含まれるプログラミング的思考や情報技術の社会的な影響などについても、STEAM教育の内容としても重要と考えます。ICT活用に留まらない、Society5.0に向けた情報技術の発展、情報社会の未来について、必履修となる教科情報との密接な関連も踏まえてカリキュラム・マネジメントをするなど、理数+情報という考え方で進めていくことが望まれると思います。